

たくさんの人に映画を知ってもらえるように頑張りましょう

株式会社八州 計測技術部 石坂 雄介

3月号の劔岳の記事を拝見いたしました。
木村大作監督のこの映画にける意気込みが伝わってきました。
つい先日、勤め先の各支社の人が集まる機会があったので、「映画を宣伝してください!!」と頼んでおきました…。
社内の中でも今までに基準点測量に従事したことのある技術者には反応は良いのですが、用地関係の仕事をずっとしてきた技術者とかには、いまいち反応がよくありません。
確かに用地関係の仕事をしてきた人からしてみればこの「劔岳点の記」はピンとこない所もあるかもしれません。
しかし、地図を作る仕事ということでは日本中の測量技術者す

べてに共通することと言えます。

この映画をたくさんの方々の測量技術者達に、観てもらうには、やはり「地図を作る」という言葉が一番重要なキーワードだと私は思います。
某建設会社のCMのキャッチコピーに「地図に残る仕事」というのがありますが、我々は「地図を作る仕事」ということをもっと宣伝できたらと思います。

映画が公開されるまで長いようで短いです。

お互い、たくさんの人に映画を知ってもらえるように頑張りましょう。〈映画『劔岳 点の記』を勝手に応援する測量技術者の会〉を立ち上げて応援しましょう。

測量業界の未来のためにも。

この監督なら測量技術者の魂を伝えてくれると確信いたしました

国土建設学院 柴田 義冬

いつも大変お世話になっております。
先日は、大変有意義な会に参加させていただきありがとうございました。懇親会の記事にも書かれているように、盛り上がったんでしょうね。
地理院OBの方もたくさんみえていましたので、きっと実際の測量の苦労話などに花が咲いたことと思います。
私も『劔岳 点の記』を読んで測量を志した身ですし、柴崎測量官と同じルート（現在長次郎雪渓とか長次郎谷と呼ばれている一般ルートではないルートです）で劔岳に登ったこともあり、それ

なりに思い入れはありますので、その辺を木村監督に聞いてもらいたかったのですが、所用で帰らせていただきました。

木村監督はとても豪快な方で、すばらしい熱弁でした。

あのど肝を抜くような迫力は、どうしてもあの場にいた人しかわからないと思ったのですが、その辺りも記事にうまく書いていただいているので、多くの読者に監督の情熱が伝わることを思います。

あのような会を企画していただき、本当にありがとうございました。直接木村監督のお話を聞き、この監督なら測量技術者の魂を伝えてくれると確信いたしました。